主日礼拝　　2020年１０月２５日（日）
題　「愛によって決心する」
テキスト：ローマの信徒への手紙１４章：１３～２３節
（聖書の個所は最後にあります。）

先週は皆様と共に、洲本教会創立１１７周年記念礼拝を捧げることができましたことを心より感謝いたします。また礼拝後には敬老感謝会を楽しく和やかにできたことを主に感謝いたします。

過ぐる１０月２１日（水）の朝日新聞の「折々のことば」には、今の日本の状況の中で印象深く考えさせられる文章がありました。ニュージーランド在住の政治学者将棋面貴巳(しょうぎめんたかし)さんの「日本国民のための愛国の教科書」という本の中の言葉からです。

「欠点を理解しない愛とは、愛の対象と共に苦しむことから逃げるので、底が浅い愛です。」

誰かを溺愛（できあい）することと、その人の欠点も含めてよく理解しようとすることは違う。国を愛するというのも、それと同じで、欠点が目についても「その欠点をどう克服すべきかを考え苦しむ」ことだと。ニュージーランド在住の政治学者は言う。贔屓（ひいき）や自慢ではなく、国をよりよいものにすべくきちんと批判の眼をもつ「覚悟」が要ると。
私は「国を愛する」ということについて考えさせられました。

さて、伝道者パウロは、イエス・キリストという土台の上に、神の教会をどのように立てて行くか、教会の成長を切に祈り願い、主イエスにつながったものたちが愛に生きるようにと教えます。この教えは主イエスご自身の教えです。

今日の個所の小見出しには「兄弟を罪に誘ってはならない」とあります。

そして教会生活の中で、
「 13:従って、もう互いに裁き合わないようにしよう。むしろ、つまずきとなるものや、妨げとなるものを、兄弟の前に置かないように決心しなさい。」と教えています。異なった意見で信徒同志がいがみ合ったり、裁き合ったりしないようにということです。主の教会建設のために愛を積極的に実行して行くようにとの教えなのです。

主イエスが愛ゆえに語り続け、行われ、十字架で苦しみ、いのちを捧げてくださったことを無駄にすることがないようにということだと思うのです。パウロは、ユダヤ教から離れイエス・キリストに心を結びつける者になりました。食物を食べることについても、彼はユダヤ教の食物規定から自由になっていました。その意味で彼は教会の中では自由で強い者でした。 14:それ自体で汚れ

たものは何もないと、わたしは主イエスによって知り、そして確信しています。汚れたものだと思うならば、それは、その人にだけ汚れたものです。

問題、課題はここからなのです。

15:あなたの食べ物について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでいません。食べ物のことで兄弟を滅ぼしてはなりません。キリストはその兄弟のために死んでくださったのです。

パウロは自由な人間になったことを神に感謝しています。

しかし、食べ物のことで弱い信仰者の兄弟姉妹を滅ぼしてはならないのです。それは、愛に従って生きていることにならないと言うのです。その愛とはキリストはその兄弟のために死んでくださったことなのです。つまりイエスさまは、神への信仰を維持する上で、食物規定から解放されていない兄弟に規則から自由になった自分の意見を強要してはならないのだということではないかとわたしには思えたのです。みなさま、いかがでしょうか？

イエス様の愛を受けた、そしてイエスさまを信じる者にとってなくてならないものは信仰からくる自由な愛です。ですから自分が正しい、良いと思っていることを信仰の友に、まだ教会に来ていない人に強要したり、心で思ったりすることも良くないのです。愛は日常の生活の中で問われるのです。

昔「ほんとうの愛は苦しむもの。」と本で読んだことがあります。マザーテレサのことばだったと記憶しています。イエス・キリストは、人の罪、弱さを知り、その兄弟のために十字架の苦しみを負い、人の心の苦しみを共に負いながら死んでくださったのです。わたしのため、あなたのため、そして罪人のために苦しんでくださったのです。

16:ですから、あなたがたにとって善いことがそしりの種にならないようにしなさい。「善いこと」を「自由」と理解している解説もあります。

つまり、あなたにとっての自由が、他者のつまずき、よもやそしりの種にならないようにしなさい、と言うのです。

ですから自分の価値観をそれがどんなに正しく思っても、いや正しくても、人に押し付けてはいけないのです。これは言うには簡単ですが、行うには至難の業のようにわたしには思えるのです。だから苦しいのです、悩むのです。

でも、それが信仰者としての底の浅い愛ではなく底の深い愛に生きるためにはかかせないのだと思えます。

また「自分を自分で過大評価することも、過少評価することも神に対する罪で

ある。」と言われます。しかし、わたしたちはどうしてもそれをしてしまい、すぐに知らずに傲慢になったり、卑屈にもなるのです。それは信仰者として神に対して的をはずした、つまり罪に支配されている生き方なのです。そのような私のために、わたしたちのためにイエスさまは共に苦しみを担い、ついには命を捧げてくださったのです。ここに愛があるのです。キリスト者は神さまの憐みと主イエスの恵みによって神さまの自由と光の中を生かされ生きるのです。

パウロは信徒の交わりの中で、決心することを自分に課し勧めもします。
愛によって決心するのです。
「21:肉も食べなければぶどう酒も飲まず、そのほか兄弟を罪に誘うようなことをしないのが望ましい。」　これは決して命令や義務ではなく、人がつまずきとなるものや、妨げとなるものを、兄弟の前に置かないように決心するということです。それは主イエスの愛ゆえです。愛は神様によって、イエスさまを通してわたしたちに与えられた意思によって決心するところに表れてくる自由な生き生きとした行いです。
自分が置かれている一番難しい場所で、人と人との間柄の中で「底の深い愛」を少しづつでも身につけて行きたいと祈ります。そのことにより主にあって更に成長させてもらえると信じます。

御子イエスが十字架についてくださり、わたしたちの的はずれの罪を完全に赦され、自由と信仰と希望と愛をくださいました。その恵みをこれからの教会の建設、成長のために生かして行けることを願います。

◆兄弟を罪に誘ってはならない

13:従って、もう互いに裁き合わないようにしよう。むしろ、つまずきとなるものや、妨げとなるものを、兄弟の前に置かないように決心しなさい。

14:それ自体で汚れたものは何もないと、わたしは主イエスによって知り、そして確信しています。汚れたものだと思うならば、それは、その人にだけ汚れたものです。

15:あなたの食べ物について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでいません。食べ物のことで兄弟を滅ぼしてはなりません。キリストはその兄弟のために死んでくださったのです。

16:ですから、あなたがたにとって善いことがそしりの種にならないようにしなさい。

17:神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。

18:このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。

19:だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。

20:食べ物のために神の働きを無にしてはなりません。すべては清いのですが、食べて人を罪に誘う者には悪い物となります。

21:肉も食べなければぶどう酒も飲まず、そのほか兄弟を罪に誘うようなことをしないのが望ましい。

22:あなたは自分が抱いている確信を、神の御前で心の内に持っていなさい。自分の決心にやましさを感じない人は幸いです。

23:疑いながら食べる人は、確信に基づいて行動していないので、罪に定められます。確信に基づいていないことは、すべて罪なのです。